防災一口メモ

被災地でボランティアとして活動するには…

地震、台風、集中豪雨.....

昨年は愛知県に記録的なゲリラ豪雨が襲来し、市内でも床上浸水の被害に遭われた世帯も発生しました。

これらの災害によって、多くの人の命や住む家や働く場が失われるなど、被災地は大きな被害を受けます。

そのような被災地の状況を見聞きして、何か力になりたいと思う人も多いでしょう。

大きな災害が発生したとき、そうした気持ちを行動に移すために、知っておきたい「災害ボランティアの心構え」をご紹介します。

１．災害発生直後、まずはテレビやラジオで被害状況を正確に把握

被災地の状況をニュースなどで見ると、すぐにでも被災地でボランティアをしたいと思う人もいるでしょう。しかし災害発生直後は、道路や鉄道、電気やガス、水道などのライフラインが寸断されるなど被災地は大きく混乱しています。また、情報の中には未確認のものや不正確なものも混じっています。

自分勝手な判断で現地に向かうのではなく、まずは、テレビやラジオなど複数のメディアで被災地の状況を正確に把握することが大切です。

２．被災地や被災者のニーズを第一に考える

災害ボランティアは、特別な人がするものではありません。「被災地の人たちの力になりたい」という気持ちがあれば、誰にでも出来ます。

実際にボランティア活動をするうえで大事なのは、被災地の人たちの気持ちやニーズを第一に考えるということです。自分の思い込みだけで、現地に入り、自分勝手に活動を始めたり、支援物資を送ったりすることはせず、被災した人々やボランティアとお互いに協力して活動に取り組むという姿勢が大切です。

３．被災地での災害ボランティアは「自己完結型」の装備で

被災地で災害ボランティアとして活動するための原則は「自分の面倒は自分で見て、他人に迷惑をかけないこと」です。自分の食料や宿泊、交通手段などはボランティアをする本人が確保し、自分の住む地域の社会福祉協議会等で「ボランティア保険」に加入してから被災地に向かいましょう。

また、被災地や被災者に余計な負担をかけてしまわないよう、危険な活動、無理な活動はせず、「自己完結型」の装備やスケジュールで現地入りすることが重要です。

４．今ここで、できることもある

自分が被災地に行ったり、支援物資を送ったりすることのほかにも、今ここでできる災害ボランティアもあります。その一つが「義援金」や「赤い羽根共同募金」などに募金することです。

これらの募金は、被災地の人たちに必要とされる物資を購入したり、被災地での災害ボランティア活動を支えたりするための大切な費用となります。

現地での災害ボランティアに参加できなくても、例えば、自分が現地に行った場合にかかる交通費分を寄付したり、自分がバイトしたお金を募金したりすることも立派なボランティアです。

自分が出来る範囲内で、無理のないボランティア活動を心がけましょう。

※義援金の募金活動は、都道府県や共同募金会等で実施されます。必ず公式ホームページ等で確認してから募金して下さい。